

# 銀座で? ミツバチ見学会

ファームエイド  
2016 開催

11月6日と6月5日、東京・銀座3丁目にあるバルブ会館で『ファームエイド2016』が開催された。新しいGINZAを発信する祭事も、今年で9年目を迎えた。公的な補助金を使わずに中規模な全国の農業を支援するこのイベントには、本学の社会学部現代社会学科・鈴木輝隆特任教授も協力している。(取材・撮影:小林千紗)

6月5日は午後には快晴となり、11月6日は終日晴天。両日も日曜日ということもあり、街を歩く人々も多い。館外では、GINZA プチマルシェが開催され、全国各地の特産品やそれらを用いたオリジナル商品が販売された。普段の

銀座と異なる光景に人々はこぞって足を止め、興味津々。

同イベントの企画として、ミツバチの生態や銀座みづばちプロジェクト(通称:銀ばち)の活動の人々に知ってもらおうと、同会館屋上ではミツバチ見学会も行われていた。

銀座と異なる光景に人々はこぞって足を止め、興味津々。同イベントの企画として、ミツバチの生態や銀座みづばちプロジェクト(通称:銀ばち)の活動の人々に知ってもらおうと、同会館屋上ではミツバチ見学会も行われていた。

銀座と異なる光景に人々はこぞって足を止め、興味津々。同イベントの企画として、ミツバチの生態や銀座みづばちプロジェクト(通称:銀ばち)の活動の人々に知ってもらおうと、同会館屋上ではミツバチ見学会も行われていた。

銀座と異なる光景に人々はこぞって足を止め、興味津々。同イベントの企画として、ミツバチの生態や銀座みづばちプロジェクト(通称:銀ばち)の活動の人々に知ってもらおうと、同会館屋上ではミツバチ見学会も行われていた。

銀座と異なる光景に人々はこぞって足を止め、興味津々。同イベントの企画として、ミツバチの生態や銀座みづばちプロジェクト(通称:銀ばち)の活動の人々に知ってもらおうと、同会館屋上ではミツバチ見学会も行われていた。

銀座と異なる光景に人々はこぞって足を止め、興味津々。同イベントの企画として、ミツバチの生態や銀座みづばちプロジェクト(通称:銀ばち)の活動の人々に知ってもらおうと、同会館屋上ではミツバチ見学会も行われていた。



上:ミツバチ見学会の様子  
中右:屋上緑化に取り組みバルブ会館  
中左:屋上にあるミツバチの巣の様子  
下:Ginzaプチマルシェ

銀ばちプロジェクト田中章仁さんは「銀座は土地が高いため公園を作るのが難しい。でも、屋上の新しいあり方が、コミュニケーションツールとして人と人をつないでいるのです」と話す。

銀ばちプロジェクト田中章仁さんは「銀座は土地が高いため公園を作るのが難しい。でも、屋上の新しいあり方が、コミュニケーションツールとして人と人をつないでいるのです」と話す。

### 本学現代社会学科の学生も参加

鈴木教授は、銀ばちプロジェクト副理事長・田中淳夫さんとの交流があり、『ファームエイド2016』に協力している。現代

社会学科の学生たちも、6月、11月にボランティアとして活動していた。2年生の及川瞭さんは「全く違う職業や価値観を持った方々が集まることで新しい発想が生まれ、情報交換によって新しい企業

が生まれていたり、新しい自分の考えを持てたりするというのは魅力的。この活動でネットワークを作るのはもちろん、自分の知識をひろげたい。銀ばちのはちみつを食べるのも楽しみ」という。



上:銀ばちプロジェクト副理事長・田中淳夫さん。下:ボランティアとして参加する江戸川大学の学生たち

